

繊維産地におけるサプライチェーン強靱化に向けた対応検討会（第3回）

議事要旨

○日時：令和6年12月19日（木曜日）10:00～12:00

○場所：経済産業省会議室及びオンライン

○出席者：

＜委員＞

奥山委員長、岩田委員、梶委員、富吉委員、西村委員、福田委員、松尾氏（鈴木委員の代理）

○議事概要：

（事務局から資料3、株式会社高島屋から資料4、フォーティファイブ・アールピーエムスタジオ株式会社から資料5、奥山委員長から資料6を説明の後、自由討議。）

● 産地の価値向上

- ・ 消費者に産地に来てもらい、製品を購入してもらうことが重要ではないか。例えば有松絞りのスズサンの売り上げの八割は海外からの需要があり、海外の観光客が工房に来て、ものづくりの体験ツアーを実施しているなどの取組がある。
- ・ ブランディングのために、産地自体が繊維と観光を結びつけて街全体をブランド化することが必要。グローバルにアピールできる概念でブランディングを行うことが重要ではないか。
- ・ 生地製造会社にとって、付加価値はファクトリーブランドを通じて大きくすることが大切ではないか。
- ・ 産地の海外展開を図る際に、展示会出展は最低3年、5～10年続けていかないと成果につながらない。
- ・ 海外では、日本の産地の地名は認識されていない。そのため、海外で売っていくには産地名でなく日本製という切り口で売っていくこと（J∞QUALITYのような取組）も有効ではないか。
- ・ OEM構造について記載があるが、今後は産地と直結した人が、企画能力を身につけないといけないのではないか。
- ・ 産地の観光支援活動、個々の取組は点の取組である。そのため、これらの施策・活動の支援をつなげた、面の取組が重要になってくる。面の取組の推進にあたっては、自治体、とくに都道府県レベルの連携が必要になるのではないか。
- ・ 日本の繊維産業の価値をどう向上させていくかと言うところが重要。これは、日本におけるサステナビリティ等のイメージの延長線上にあると思う。日本で回収→再利用→販売を回していくことや、欧州のトレサビリティへの対応などを進めることが重要であり、政府としても支援を検討していくべきではないか。

以上